

「開かれた市政をつくる市民の会」は、新たな一歩を踏み出します。

多くの仲間とともに市庁舎新築移転の策謀に抗して立ち上がり、5万人を超える市民の皆さんの支持を結集した日より、既に足掛け10年の月日経ちました。

しかし、その市民の声を蹂躪した市の行政当局とそれを支える市議会諸会派は、位置条例を強行し、この11月に新庁舎への移転を完了。「市民の声を尊重する」と言う民主的市政運営の基本を放棄するという汚点を残して、この問題にピリオドを打ったのです。

私たちは、位置条例強行後、「開かれた市政をつくる市民の会」に結集し、今日まで、市政の民主化を求めて、執念を燃やし続けて来ました。しかし、今日、約55年間にわたって鳥取市の象徴であり続けた旧市庁舎が半ば廃墟寸前の姿でたたずむのを見るにつけ、痛恨の思いにかられずにはられません。

さらに鳥取市の街づくりの基本構想である「2核2軸」の一方の基軸である若桜街道は、新築移転の決定以降、その荒廃が一気に進んでいます。全国の県庁所在地のメインストリートが、シャッター通りになり果てている姿は何処にもありません。市当局の街づくりと市政運営の無策を、これほど如実に示しているものはありません。それを止め、商店街を活性化させ、市街地に活気を呼び込む施策は、旧市庁舎跡地を、どのように利用していくかが一つのカギとなるはずです。

しかし現状はどうでしょうか。市当局は何の方向性も示す事が出来ずにいます。市議会もその市当局に追随しています。新築移転に際して、あれだけ熱心に公聴会を開いてきた市当局は、今では市民の声を聴くことすら考えていないようです。

こうした状況を見るにつけ、私たち「市民の会」は、新たな時点に立って、「市民の会」の基本を再確認し、組織を新たにして「私たちの手で市民が求める街づくり」の方向を探っていこうと考えるに至りました。そして、今私たちがなすべき事は、今こそ民主的市政の根幹である「市民の声に真摯に耳を傾ける事」であり、「それを具体的にまとめて行政当局に提案していく」ことであると考えています。

私たち「市民の会」を支え続けて頂いた多くの皆さんだけでなく、市政を市民みんなのものと思う皆さんとともに集まって一緒に考え、声を上げていきたいと思っています。

その手始めとして、下記に示すように、2020年当初に「旧市庁舎跡地利用と新たな街づくりを考える」懇談会を開く予定です。

この懇談会で一定の方向性をまとめ、2020年の早い時期に、多くの市民に呼び掛けて「旧市庁舎跡地利用をきっかけに鳥取市の活性化を考える」シンポジウムを開催することを計画しています。

記

「旧市庁舎跡地利用シンポジウム準備会」の開催について

① 参加者

市政の民主化と旧市庁舎跡地問題について関心を持つ下記の方々に呼び掛けて参加して頂き、検討を開始する。

有識者、地域関係者、市民団体代表者、合併町村住民、一般参加者等
「市民の会」理事、事務局員

② 日時・場所

会場 遷喬地区公民館 会議室

日時 2019年1月25日(土) 午後14:00～16:30

③ 問題提起者 理事及び事務局から 2名

司会者 理事及び事務局から 2名

④ ここでの議論を土台として、次の課題である「旧市役所跡地利用についてのシンポジウム」の構想をまとめていきます。

令和元年(2019年) 12月

「開かれた市政をつくる市民の会」

代表理事： 八村 輝夫、谷口 肇、浦木 清

*「開かれた市政をつくる市民の会」連絡先

住所： 〒680-0051 鳥取市若桜町39(ロゴス文化会館3階)

電話： 090-8247-5488

ホームページ： <http://www.sustainabletori.com/>

(← 「鳥取」+「市民の会」で検索できます)